

画像符号化・映像メディア処理レター特集の発行にあたって



画像符号化・映像メディア処理レター特集編集委員会

委員長 齊藤 隆弘

本レター特集は、2007年7月号に本論文誌に掲載されたものが第1回であり、今回が第4回となる。本レター特集は、本会画像工学研究専門委員会の主催で毎年秋に同一会場にて開催されている画像符号化シンポジウム (PCSJ)・映像メディア処理シンポジウム (IMPS) と連動させて企画したものである。PCSJ, IMPSでは、四半世紀にわたり、最新のアイデアや研究成果が発表され、熱心に討議がなされ、これらの分野の研究開発の進展に大いに寄与してきた。PCSJ, IMPSでの重要な話題を、本会の会員諸兄に広く、早くお伝えすることを趣旨とし、前年秋に開催された直近のシンポジウムで発表された研究成果を、その討議を踏まえて発展させたもの、並びに画像符号化・映像メディア処理に関連したそのほかの研究を主題とした特集号を企画してきた。特に、速報性を重視し、レター特集としている。

2007年の投稿件数は50編（うち34編がPCSJ/IMPSでの発表）、採録件数は28編で、2008年の投稿件数は49編（うち31編がPCSJ/IMPSでの発表）、採録件数は36編で、2009年の投稿件数は31編（うち25編がPCSJ/

IMPSでの発表）、採録件数は20編であった。今回は、35編の投稿があり（うち18編がPCSJ/IMPSでの発表）、そのうち25編が採録となった。採録論文の内容を精査すると、1) カラー画像の符号化・処理のための新手法の提案、2) 画質改善を指向した実用的な動画像符号化技術の開発、3) Web上の膨大な画像資源の活用を前提とした新しい画像符号化・処理法の提案、4) 三次元画像の処理や応用に関する研究の深化などの傾向が読み取れ、これらの方向の研究が活性化することが期待される。

最後に、貴重な研究成果を投稿して頂いた方々、本編集委員会メンバ、査読委員、本企画をサポートして頂いた和文論文誌D編集委員会の関係各位に感謝の意を表します。また、本レター特集が、会員諸兄に有益なものであれば幸いです。

齊藤 隆弘 (正員) 昭51東大・工・電気卒、昭56同大大学院博士課程了。工博、同年神奈川大・工・専任講師、平3同教授、現在に至る。画像入力、信号処理、画像処理、画像符号化など画像工学に関する研究に従事。

画像符号化・映像メディア処理レター特集編集委員会

委員長	齊藤 隆弘
幹事	井口 和久・坂東 幸浩
委員	相澤 清晴・加藤 嘉明・川田 亮一・久保田 彰
	境田 慎一・筒口 拳・浜本 隆之・藤井 俊彰
	八島 由幸・米山 曉夫